

令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>・生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。</p>	<p>①生徒が「見方・考え方」を自在に働かせられるような、教師の専門性の発揮と不断の授業改善を実施する。</p> <p>②KU（総合的な探究の時間）において、探究のサイクルを複数回回すとともに、外部コンテストを活用するなど、成果を発表できる機会を増やす。</p>	<p>① 新カリキュラム施行3年間の経験から課題を整理・分析し、資質・能力の三つの柱を育成する教科指導を実施する。</p> <p>②-1 教師一人ひとりのゼミを開設し、学年や年度を超えた指導体制をつくり、きめ細かな生徒支援体制を構築する。</p> <p>②-2 積極的な外部コンテストの参加・応募を促す。</p>	<p>①生徒による授業評価（全体）の項目1～6について、肯定的回答割合が9割以上である。</p> <p>②-1 KUの指導体制について教師にアンケートを実施し課題を抽出し改善を図った。</p> <p>②-2 外部コンテストへの参加・応募が前年度より増加している。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>・生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。</p> <p>・学校行事や生徒会活動において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。</p> <p>・生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p>	<p>①学校行事や部活動に参画する経験が、生徒の主体性や創造性、社会性を高めることを意識させる。</p> <p>②様々な場面での活動を通して、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>③生徒の状況を把握、共有し、必要な支援を組織的に行う</p>	<p>① 所属する集団の中で自身の役割が何かを自覚させることで、主体的な行動を促す。</p> <p>②生徒会や委員会などを主として運営する生徒と教職員の連携を密にし、学校行事の成功に向けて集団を導く力が身につくように支援する。</p> <p>③生徒一人ひとりの心の健康についても、心のアンケート等を利用して働きかけを行い、必要に応じてSC・SSW等とも連携して学校全体で見守る体制づくりを行う。</p>	<p>①学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>②学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>③すべての必要な生徒の状況について、SC・SSWを含め情報共有を図った。</p>
3	進路指導・支援	<p>・高大接続を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による将来の自己の在り方生き方の探究を支援する。</p>	<p>①生徒一人ひとりに高い目標を意識させ、最も志望する進路が実現できるよう支援する。</p>	<p>① -1 総合的な探究の時間をはじめとした各教科・科目における教育活動が、生徒のキャリア形成につながるよう、キャリア教育、キャリア支援の充実を図る。</p> <p>①-2 生徒が最も希望する進路を実現することができるように、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスをはじめ</p>	<p>①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上である。</p> <p>①-2 キャリアガイダンスや夏期講習・勉強合宿等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、前年度より多く行われ</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
		②生徒が将来の自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、キャリア支援を充実させる。	めとした各種ガイダンスや、夏期講習等の学力向上に向けた取組をさらに充実させる。 ①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」やその関連科目の形態・指導内容について一層の拡充を図り、教育学部をはじめとした教職に関わる大学への進学を支援する体制づくりを行う。 ②-1 生徒の進路実現を図るために、生徒・教職員へのガイダンス・周知を行い、協調して支援・指導をする体制づくりを行う。 ②-2 進路実現に向けて令和7年度以降入学生の教育課程の改善を進める。	た。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」において、充実した支援を行った。 ②-1 生徒の進路実現という視点を踏まえたガイダンス・周知を行い、協調を図った。 ②-2 各教科から丁寧に意見を吸い上げ、教育課程の改善を進めることができた。
4	地域等との協働 ・地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ・学校の魅力と特色を積極的に発信する。 ・横浜国立大学との連携の強化を図る。	①地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 ②学校の魅力と特色を積極的に発信する。 ③横浜国立大学との連携の強化を図る。	①近隣学校との交流事業を推進する。 ②本校の受検を検討している中学生とその保護者に向け、ホームページを活用し、積極的な情報発信に取り組む。 ③横浜国立大学のリソースを活用し、大学との連携をさらに推進させる	①参加した生徒が協働や多様性について考えることができた。 ②学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上である。 ③横浜国立大学との連携を強化できた。
5	学校管理 学校運営 ・学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組む組織とする。 ・生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①管理職を含め、教職員同士が目的意識を共有し、日常的な情報交換・コミュニケーションを図る。 ②質の高い授業の実施、教育相談体制の充実、教育施設や防犯体制の拡充を図る。 ③教務及び学務に関する校務の見直しを進め、事故防止及び業務の効率化を組織的に進めていく。	① 多様な職員研修を実施し、日常的な情報交換・コミュニケーションの環境づくりに努める。 ②生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。 ③校務支援システム等を活用し、学校と保護者間のコミュニケーションについて、ペーパーレス化を推進するとともに、日々の教務関係の業務改善を図	①多様な職員研修の実施回数が8回以上である。 ②職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報共有が推進できた。 ③校務支援システム等の活用の結果、業務の改善により効率化が図られ、残業時間の軽減につながった。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
				る。	